

論文審査の結果の要旨

氏名：中 神 尚 子

専攻分野の名称：博士（医学）

論文題名：正常眼圧緑内障における眼圧下降治療の効果と視野障害進行因子に関する研究

審査委員：（主査） 教授 湯 澤 美都子

（副査） 教授 大井田 隆 教授 石 原 寿 光

教授 久 代 登志男

緑内障は我が国の中途失明原因の1位を占める。緑内障のうち最も頻度の高い正常眼圧緑内障（normal-tension glaucoma: 以下 NTG）は眼圧が正常範囲であるにも関わらず高眼圧に基づく開放隅角緑内障と同様の視神経・視野障害を生じる。しかし、我が国の NTG 患者に対する眼圧下降治療の有効性や眼圧以外の因子の関与について十分解明されていない。

本研究の目的は NTG 患者に対する眼圧下降治療の意義と眼圧の視野障害進行に対する影響を評価し、さらに眼圧以外の眼内因子や眼外因子が視神経・視野障害進行に与える影響を明らかにすることである。

対象は NTG の診断確定後、眼圧下降薬点眼治療のみで4年以上もしくは2年以上経過観察を行った各 64 例 64 眼、92 例 92 眼である。これらに対し眼圧下降治療効果として視野障害非進行確率を算出した。また、視野障害進行に対する眼圧下降状況、視神経乳頭形状、観察開始時の視野障害病期、眼外因子として全身疾患の合併と加療歴、緑内障家族歴の関連について検討した。統計学的検討は Kaplan-Meier 生命表分析と Cox 比例ハザードモデル分析を行った。

結果 眼圧下降点眼治療下での視野障害非進行確率は 51 カ月で 61%、77 カ月で 56%であった。視野障害進行因子として日内変動平均眼圧高値、治療下平均眼圧高値、治療下眼圧変動幅増大、視神経乳頭形状が generalized cup enlargement タイプ、観察開始時視野障害後期、乳頭出血が選択された。眼外因子とは関連がなかった。また、全身疾患の合併に関わらず眼圧下降不良例では視野障害が進行した。

結論 日本人の NTG において眼圧下降治療は視野障害進行抑制に有効であり、眼圧因子の重要性が確認された。

本研究は長期にわたる経過観察によって NTG において視野障害進行の抑制に眼圧下降と眼圧因子が重要であることを明らかにした臨床的に価値ある研究である。

よって本論文は、博士（医学）の学位を授与されるに値するものと認められる。

以 上

平成 年 月 日